

2022年3月期 IR説明会資料

2022年5月
株式会社 極洋

(東証プライム市場 証券コード 1301)

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

I .2022年3月期

P2～13

II .2023年3月期の施策・業績予想

P14～19

III.株主還元

P20～21

ご参考資料

P22～28

I .2022年3月期

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	前期比		2022年 3月期当初 通期予想	通期 予想比
			増減額	増減比率		
売上高	249,197	253,575	4,378	1.8%	250,000	3,575
営業利益	4,657	6,392	1,734	37.2%	5,000	1,392
経常利益	4,879	6,904	2,025	41.5%	5,000	1,904
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,838	4,634	796	20.7%	3,500	1,134

➤ 前年同期比

- ・ 営業利益・経常利益は約4割の大幅増益で、過去最高益を更新。
- ・ 当期純利益も約2割の増益。

➤ 当初通期予想比（2021年5月14日公表）

- ・ 売上高・営業利益・経常利益・当期純利益とも予想値超え。
- ・ コロナ禍で堅調な内食需要を取り込んだ水産商事事業が牽引し、大幅増益。

※2022年3月期通期連結業績予想数値は2022年2月25日付で修正、公表しています。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2021年 3月末	2022年 3月末	前期比		2021年 3月末	2022年 3月末	前期比
資産の部				負債の部			
流動資産	86,649	99,527	12,877	流動負債	39,189	56,936	17,747
受取手形 及び売掛金	32,869	28,683	△4,186	内、支払手形および買 掛金	8,941	9,950	1,009
商品及び製品	32,150	44,997	12,847	内、短期借入金 (含むCP)	18,056	30,714	12,657
仕掛品	3,667	3,440	△226	固定負債	37,166	31,348	△5,817
原材料及び貯蔵品	5,942	6,191	248	内、長期借入金	32,720	27,021	△5,698
その他	12,019	16,214	4,194	負債合計	76,355	88,285	11,929
固定資産	29,681	30,932	1,251	純資産の部			
有形固定資産	15,715	18,897	3,181	株主資本	35,300	39,072	3,771
無形固定資産	417	350	△67	その他の 包括利益累計額	5,081	3,632	△1,448
投資その他の資産	13,547	11,685	△1,862	非支配株主持分	△407	△530	△123
資産合計	116,331	130,460	14,129	純資産合計	39,975	42,174	2,199
				負債及び純資産合計	116,331	130,460	14,129

- ・水産物相場の上昇により在庫高が増加し、「商品及び製品」、「短期借入金（含むCP）」が増加。

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期	前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益	5,621	6,725	1,104
	減価償却費	1,941	1,835	△105
	売上債権の増減 (△は増加)	428	4,482	4,053
	棚卸資産の増減 (△は増加)	△802	△12,822	△12,019
	仕入債務の増減 (△は減少)	975	952	△23
	その他	△2,167	△2,302	△135
	小計	5,997	△1,128	△7,125
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△2,395	△4,859	△2,464
	その他	1,868	△365	△2,233
	小計	△527	△5,225	△4,698
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金 (含むCP)の増減 (△は減少)	△8,927	6,192	15,119
	長期借入れの増減 (△は減少)	5,283	570	△4,712
	その他	△982	△1,019	△36
	小計	△4,627	5,743	10,371

・水産物相場の高値の影響で「棚卸資産」が増加

財務関係指標

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	前期比
自己資本 (百万円)	28,889	31,821	32,718	40,382	42,705	2,322
有利子負債 (百万円)	51,476	58,023	55,173	51,174	58,121	6,947
総資産 (百万円)	106,297	114,673	111,184	116,331	130,460	14,129
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	4,977	4,621	6,313	7,097	6,539	△557
自己資本比率	27.2%	27.7%	29.4%	34.7%	32.7%	△2.0ポイント
D/Eレシオ	1.8倍	1.9倍	1.7倍	1.4倍	1.5倍	+0.1ポイント

- ・ 水産物相場の価格上昇に伴う在庫高増加により、総資産が増加。
- ・ 総資産の増加により、自己資本比率が減少。

戦略

事業課題への継続的取組み

事業を取り巻く環境

食品事業・海外事業の拡大

➤機構改正【4月】

食品部門を商品別から業態別の組織に再編成、販売力を強化

➤KYOKUYO GLOBAL SEAFOODS Co., Ltd.の工場完工【2月】

煮魚・焼魚や寿司種などを製造する海外基幹工場
日本、東南アジアや欧米へグローバルに商品供給



新型コロナウイルスで
市場環境が大きく変化

世界的な和食需要の
高まり

水産商事事業・養殖事業の収益安定化

◆家庭用商品を含めた水産加工品へのシフト加速



コロナ禍で量販店の
需要が堅調

資源アクセスの強化

➤国産陸上養殖アトランティックサーモンの販売合意【1月】

建設中の世界最大級・閉鎖循環式陸上養殖場で生産するサーモン
2025年より販売

世界的な水産物
需要増加

➤海外まき網船「第11わかば丸」進水【2月】

カツオを漁獲する、水産資源の持続性に配慮した、
国際的競争力を有する大型船。2022年8月に出漁予定



水産資源の持続性
の意識の高まり

外国船との競争激化

戦略

持続的成長への挑戦

事業を取り巻く環境

商品開発、ブランドの強化

➤新企業CMの放映開始【4月】

「生活を楽しむための食」を表現したCMでブランド強化



コロナ禍で食の楽しさが再認識される

セグメントの状況

セグメント別売上高・利益

(単位：百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2021年3月期	2022年3月期	前期比	2021年3月期	2022年3月期	前期比
水産 商事	118,949	120,796	1,847	3,067	5,150	2,083
食品	98,806	96,883	△1,922	1,685	1,046	△638
鯉・鮪	29,918	34,295	4,377	506	988	482
物流 サービス	1,079	1,176	96	369	218	△151
その他	443	423	△20	△970	△1,011	△40
合 計	249,197	253,575	4,378	4,657	6,392	1,734

※2022年3月期より、当社グループ内の管理区分を見直したことに伴い、従来の「冷凍食品」と「常温食品」を統合し、「食品セグメント」に変更しております。なお、2021年3月期の数値は、変更後セグメント区分に組み替えた数値です。

▶ 水産商事

《増収増益》

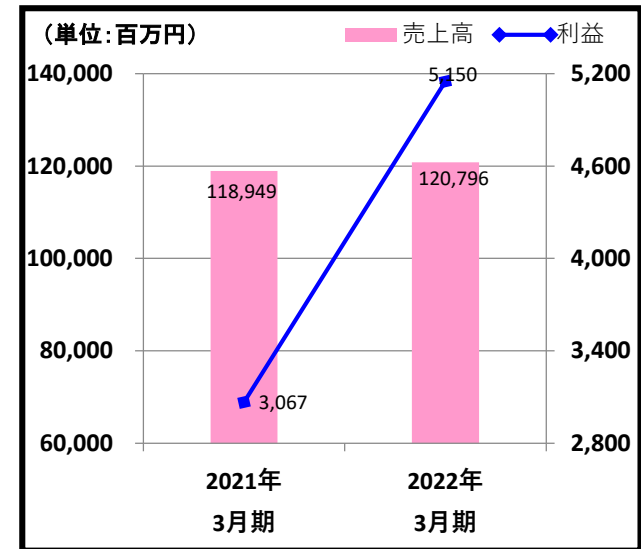
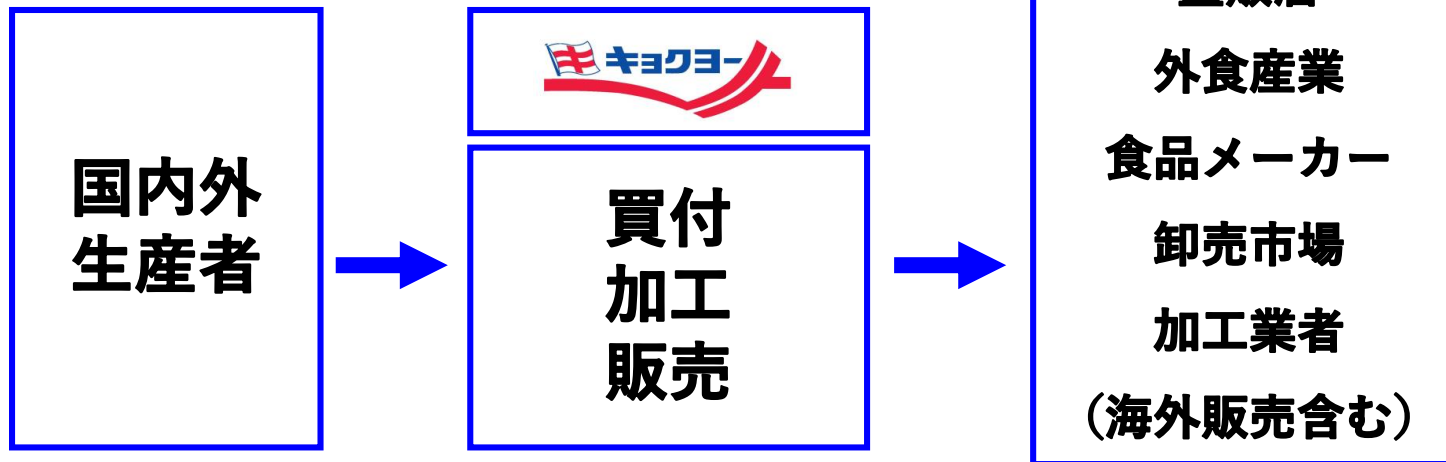
(国内販売)

- 量販店向けにサケ・エビ加工品の販売が順調に推移
- 高額商品のカニ・魚卵の販売が伸長
- 北洋魚の在庫管理の徹底により利益改善
- 先高観から加工用原料の販売が伸長

(海外事業)

- 中国向けのホタテ輸出が伸長
- 北米の消費回復で現地販売の持ち直し

※参考資料P.23「魚種別売上重量・単価推移」を記載しております。



➤ 食品

《減収減益》

(業務用冷凍食品)

- 寿司種などの生食商材は一定の販売を確保
- 外食、給食ルートで主力の水産フライ製品を中心に減少

(市販用冷凍食品)

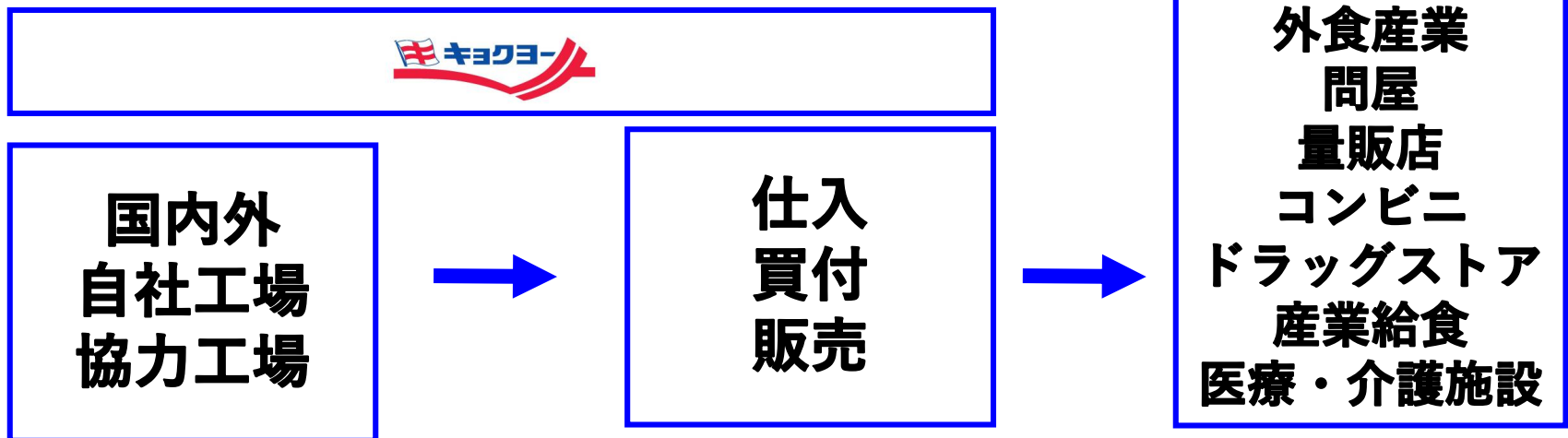
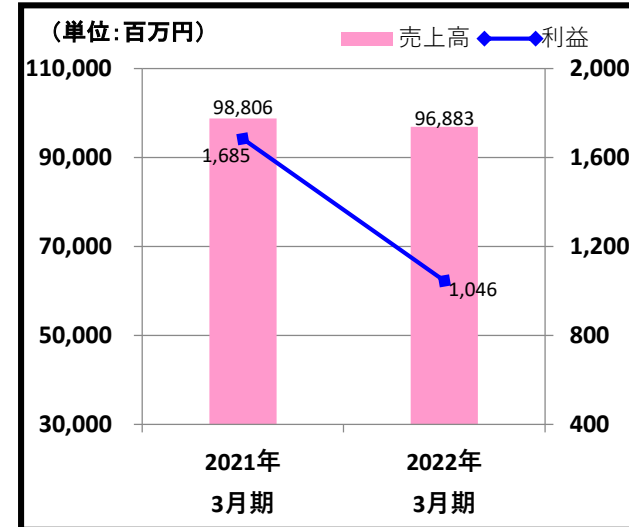
- 煮魚・焼き魚のドラッグストア向け販売が伸長

(缶詰)

- 巣ごもり需要が一服し、主力量販店での売上が減少

(全体) 原材料高騰や海上運賃の上昇により収益圧迫

※参考資料P.24「食品事業の売上高内訳」を記載しております。

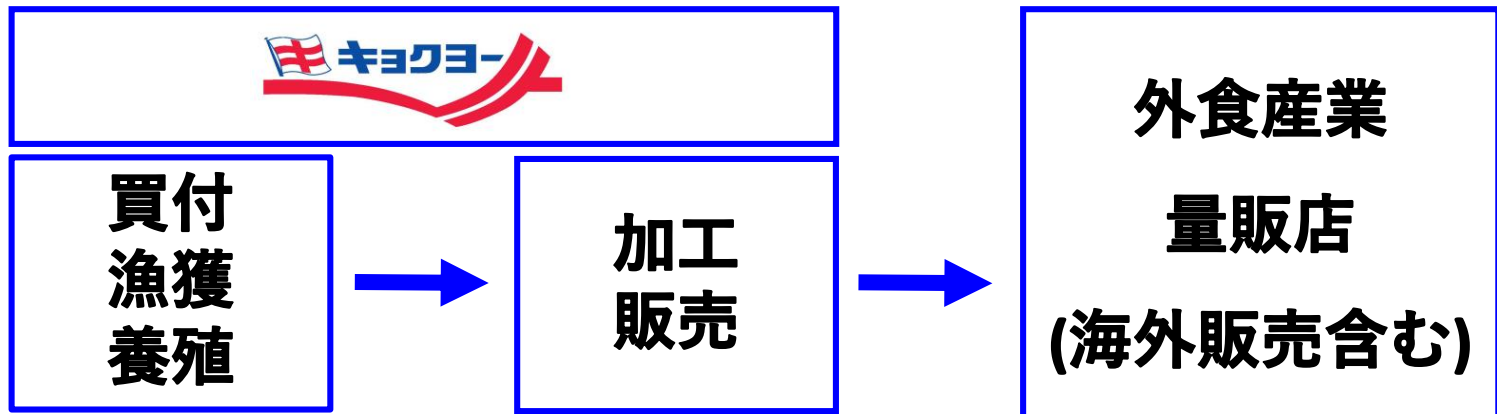
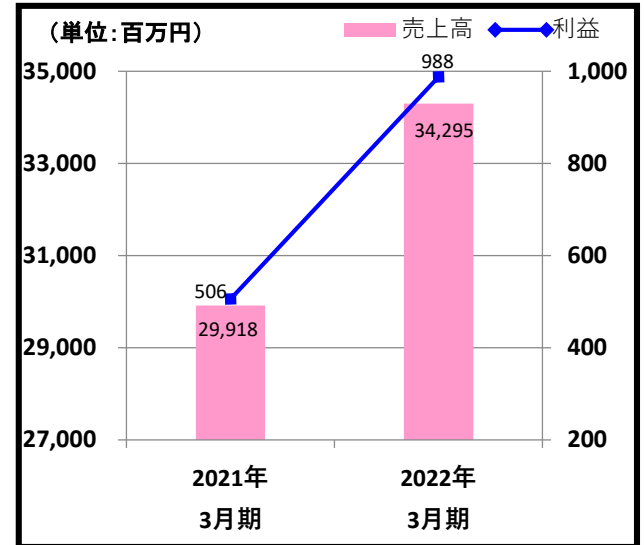


➤ 鯉・鮪

《増収増益》

- 輸入クロマグロの取扱いが増加
 - 加工品は量販店・回転寿司ルート中心に販売が好調
- (養殖事業)
- 国産クロマグロの品質向上、出荷体制の安定化により利益改善
- (海外まき網事業)
- 海外まき網事業は、カツオ魚価回復により収支が改善

※参考資料P.25～26「海外まき網事業 水揚げ重量・魚価」および「クロマグロ養殖事業 売上重量・金額」を記載しております。



物流サービス

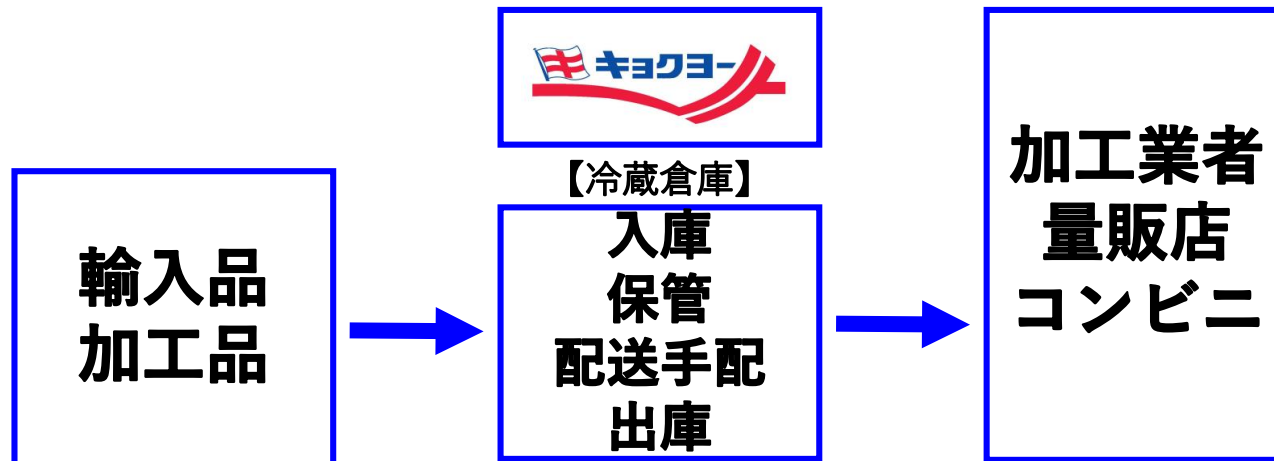
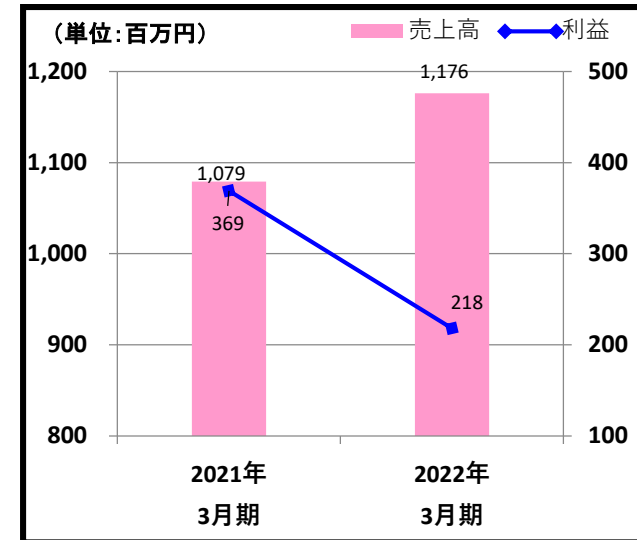
《増収減益》

(配送事業)

- 海上輸送の混乱による国内幹線輸送の増加に対して取組みを強化し、売上が伸長

(倉庫事業)

- 水産物の堅調な需要に支えられ、出庫数量は増加も、入庫数量が前年並みで、在庫数量が減少し、利益に影響



Ⅱ .2023年3月期の施策・業績予想

➤ 水産商事

< 施策 >

付加価値の高い、自社加工製品の販売拡大

調達先・加工拠点の多様化

海外における自社工場製品の販売加速

海外で調達・加工・販売までを完結させるビジネスモデルの構築

< 中計戦略 >

水産商事及び養殖事業
の収益安定化

資源アクセスの強化

海外事業の拡大

➤ 食品

< 施策 >

細分化した業態別販売体制の強化

自社工場製品の販売に注力し、工場稼働を効率化

コストアップに応じた商品戦略の浸透

< 中計戦略 >

食品事業の強化

商品開発・ブランドの
強化

➤ 経銷

< 施策 >

自社工場加工製品の拡販

国産養殖クロマグロの安定供給

養殖マダイの販売強化

海外まき網船の操業効率性を高め、収益性向上

< 中計戦略 >

水産商事及び養殖事業
の収益安定化

資源アクセスの強化

➤ 物流サービス

< 施策 >

グループ在庫を核とした適正な管理

外部取引先への営業による庫腹率の向上

配送と保管一体化サービスの推進

< 中計戦略 >

DXの推進

事業セグメント別業績予想

(単位：百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	前期比	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	前期比
水産 商事	120,796	130,000	9,203	5,150	4,500	△650
食品	96,883	109,000	12,116	1,046	2,300	1,253
鯉・鮪	34,295	35,000	704	988	1,400	411
物流 サービス	1,176	1,000	△176	218	200	△18
その他	423	0	△423	△1,011	△1,400	△388
合 計	253,575	275,000	21,425	6,392	7,000	607

設備投資計画

	概要	2022年3月期 3月末実績	2023年3月期 計画
極 洋	塩釜工場関連	3億円	1億円
	生産工場関連	0億円	2億円
	研究所関連	0億円	1億円
	養殖事業海上	0億円	1億円
	IT関連その他	2億円	7億円
	計	6億円	12億円
関係 会社	生産工場関連	15億円	15億円
	まき網事業関連	29億円	9億円
	養殖事業海上	1億円	1億円
	IT関連その他	0億円	1億円
	計	45億円	26億円
合計		51億円	38億円

主な投資案件

DX推進

グループ内横断的システム導入

2022年3月期は海外まき網船建造

連結業績予想と中計目標値

	連結業績予想 (中計2年目)	中計最終年度目標値 (中計3年目)
売上高	2,750億円	3,000億円
営業利益	70億円	70億円
経常利益	70億円	65億円
営業利益率	2.5%	2%超
経常利益率	2.5%	2%超

Ⅲ.株主還元

増配：4年前比で30円増加

利益配分に関する 基本方針

株主に対する適切な利益還元を経営の重要な課題のひとつと位置付けており、企業体質の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実を図るとともに、安定配当を継続しつつも、中長期的な利益成長による配当水準の向上を目指します。

優待品

■ 対象株主及び優待の内容

(1) 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上3単元（300株）未満所有の株主様には、2,500円相当の当社製品を贈呈

(2) 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された3単元（300株）以上所有の株主様には、6,000円相当の当社製品を贈呈

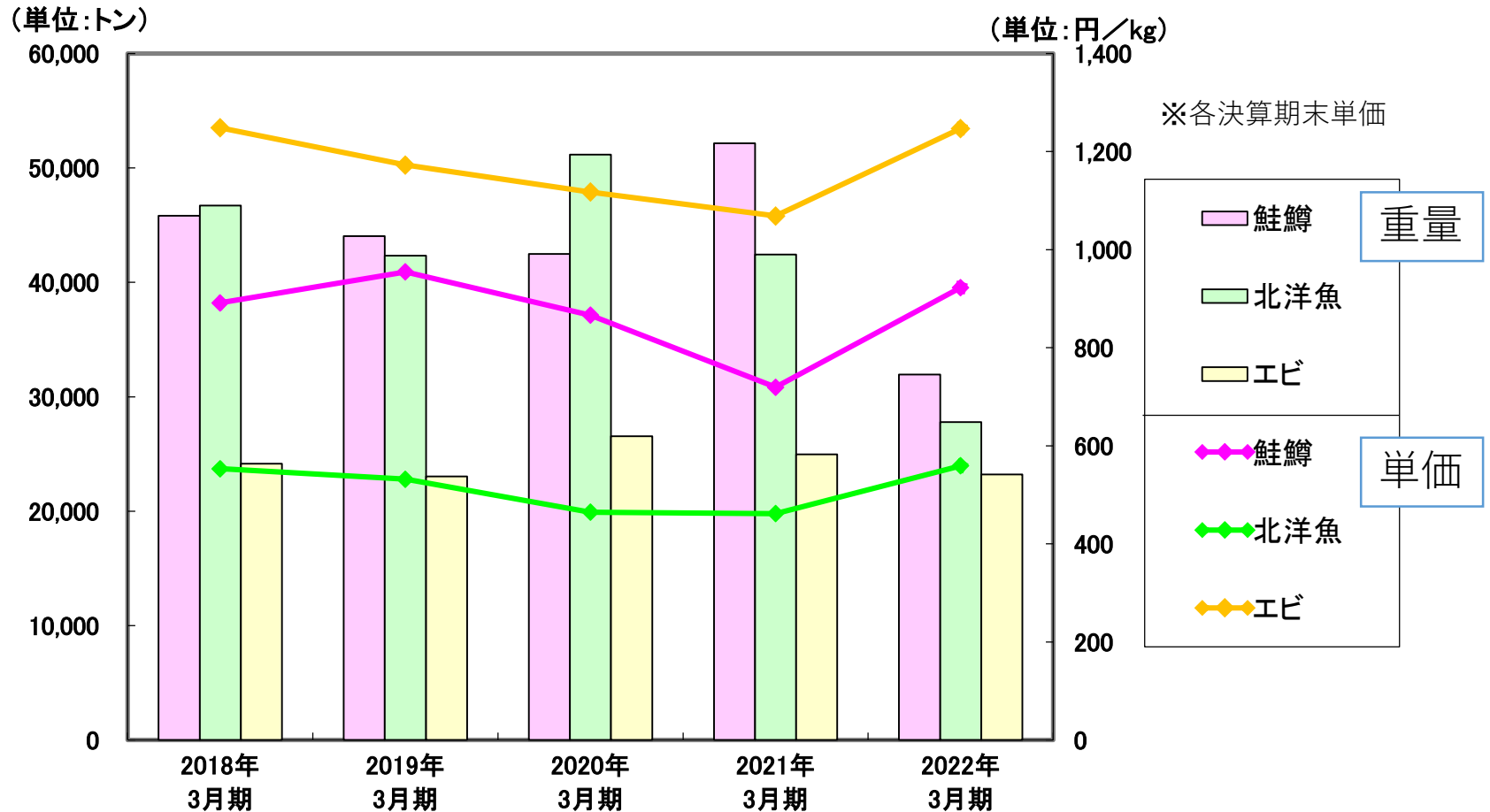
■ 贈呈時期 : 毎年7月予定

配当の状況

	1株当たりの 配当金
2018年3月期	60円
2019年3月期	70円
2020年3月期	70円
2021年3月期	80円
2022年3月期	90円
2023年3月期 予想	90円

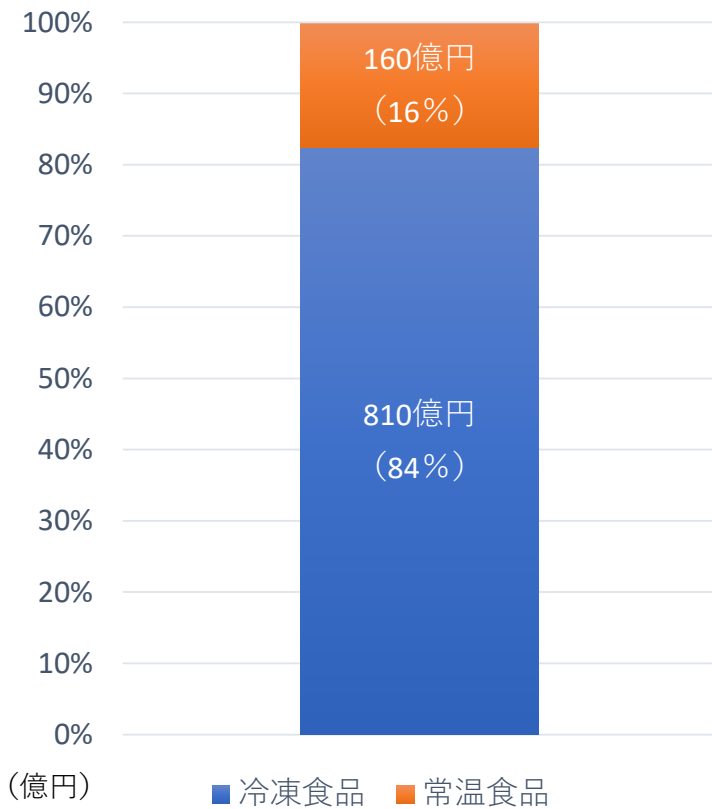
ご参考資料

水産商事<個別> 魚種別売上重量・単価推移

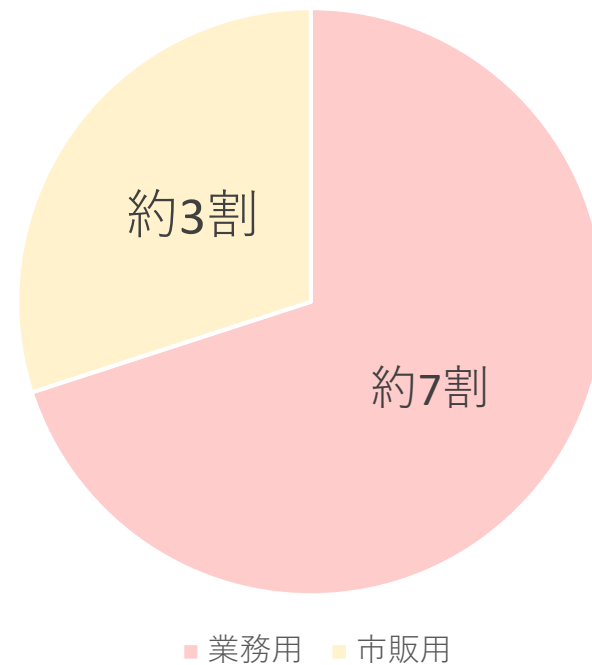


食品事業の売上高（96,883百万円）内訳

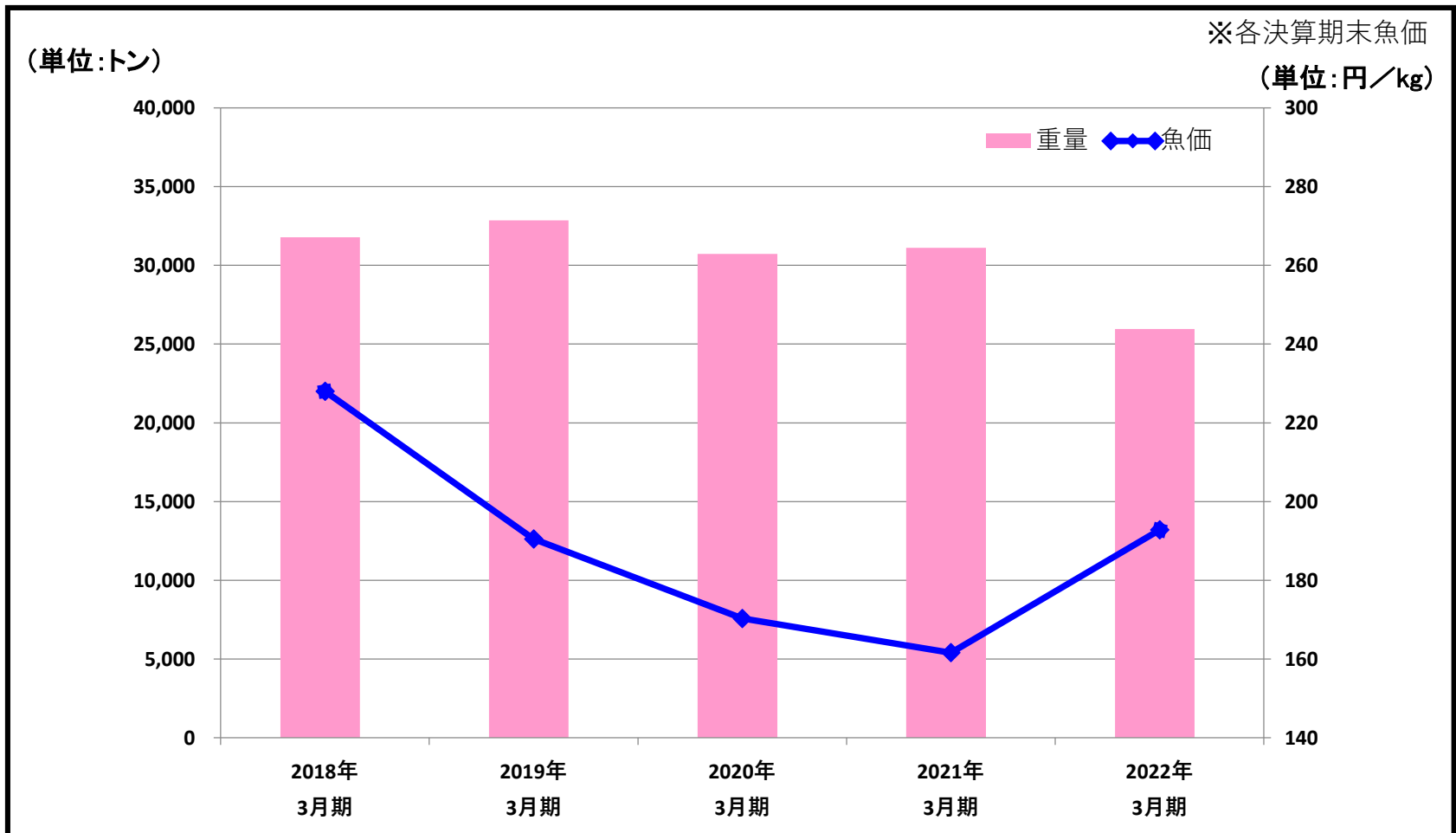
温度帯別



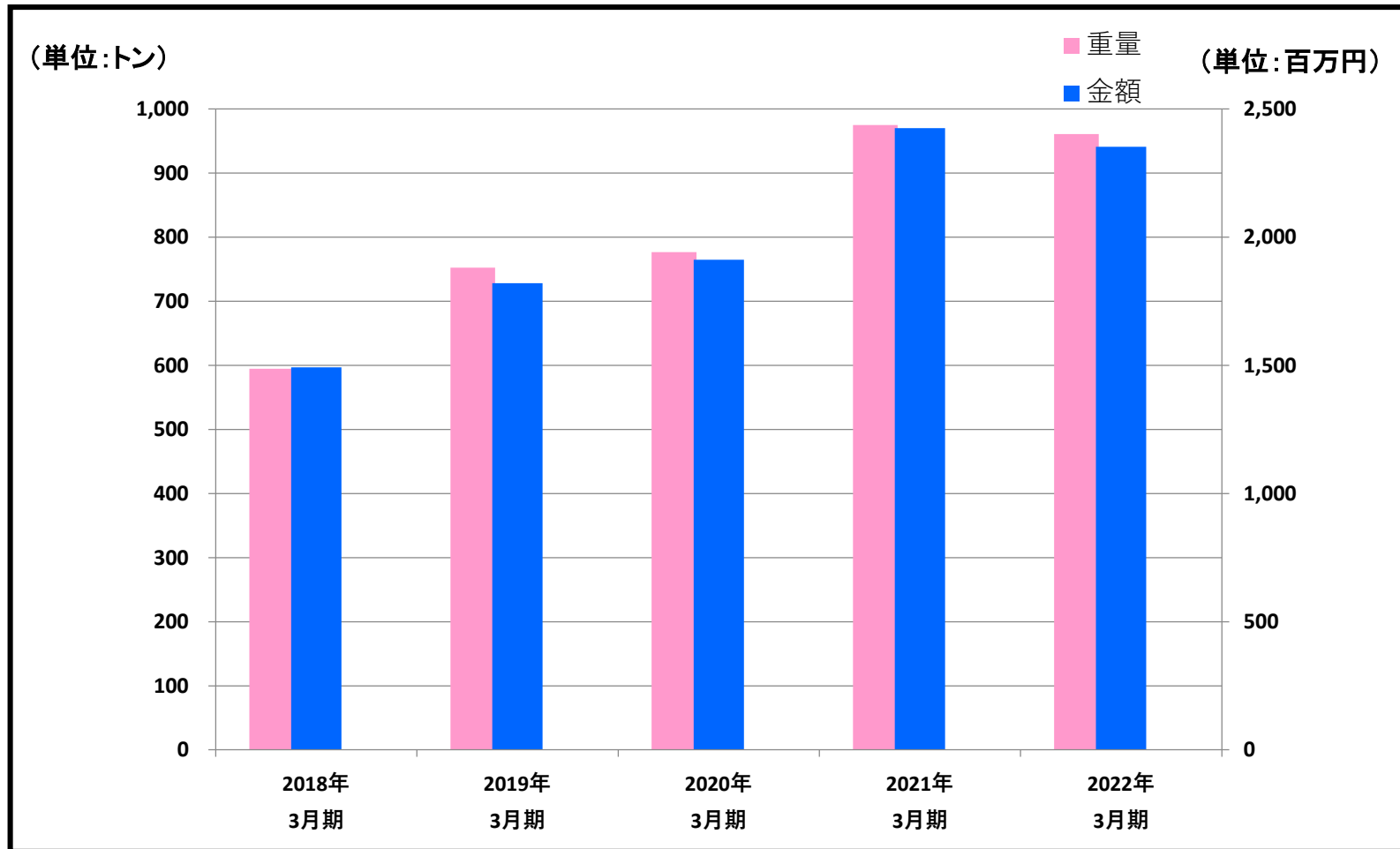
業態別



海外まき網事業 水揚げ重量・魚価



クロマグロ養殖事業 売上重量・金額



➤ 連結業績推移

単位：百万円

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
売上高	254,783	256,151	262,519	249,197	253,575
売上原価	231,180	232,446	238,274	223,620	225,558
売上総利益	23,603	23,705	24,245	25,576	28,016
販売費および 一般管理費	19,536	19,873	21,326	20,918	21,624
営業利益	4,066	3,831	2,918	4,657	6,392
経常利益	4,437	4,434	3,608	4,879	6,904
特別利益	1,576	125	68	1,676	50
特別損失	1,461	570	664	934	229
親会社株主に 帰属する当期 純利益	3,211	2,914	2,037	3,838	4,634

➤ 連結財務指標の推移

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
純資産(百万円)	29,243	31,996	32,593	39,975	42,174
有利子負債 (百万円)	51,476	58,023	55,173	51,174	58,121
在庫回転日数	42.2日	46.0日	45.9日	46.7日	53.6日
自己資本比率	27.2%	27.7%	29.4%	34.7%	32.7%
ROE	11.9%	9.6%	6.3%	10.5%	11.2%
ROA	4.4%	4.0%	3.2%	4.3%	5.6%
1株当たり 純資産(円)	2,679.00円	2,941.26円	3,046.26円	3,753.90円	3,969.73円
1株当たり 当期純利益 (円)	304.29円	269.63円	188.53円	356.95円	430.83円

- ROE：「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本*」
- ROA：「経常利益÷総資産*」
- 在庫回転日数：「商製品在庫高*÷売上高×365」
- 自己資本比率：「自己資本÷総資産」

*当期末と前期末の平均値としている。

見通しに関する注意事項

本資料は、2022年3月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としており、必ずしも投資をお勧めするものではありません。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因によりこれらの予想と異なることがありますのでご了承ください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極洋 経営管理部IR室 電話03-5545-0703

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。